

## 令和4年度広島県特別支援学校教育研究大会 実施報告

### 1 日時

令和4年12月27日（火）12：45～16：30

### 2 会場

広島県立歴史博物館 大ホール

### 3 参加者

令和4年度広島県特別支援学校教育研究会会員（会員数1,104名）

会場参加 118名，オンライン参加 422名

### 4 開催方法

- 各学校1教場（分校・分級・分教室はそれぞれ1教場とする。）につき5名以内での会場参加
- 各学校におけるZoomによるオンライン参加

### 5 内容等に対するアンケート結果（回収率 27.0%）

#### （1）研究発表

発表順	グループ	研究発表校	研究テーマ
1	視覚障害・聴覚障害	広島県立 尾道特別支援学校	目標をもって学習に取り組む力の向上を目指した授業づくり～導入時の実態に応じた「しかけ」の工夫を通して～
2	肢体不自由・病弱	広島県立 広島特別支援学校	重度重複障害のある児童生徒の学習指導要領に基づいた学習評価の充実～実態に応じた支援機器の活用を通して～
3	知的障害Ⅰ	広島県立 沼隈特別支援学校	活用できる「ぬまくまプラン」の作成に向けて～実態把握票に基づく授業づくり～
4	知的障害Ⅱ	広島市立 広島特別支援学校	「よし、やろう！」を引き出す授業づくり

研究発表に係るアンケート結果は次のとおりであった。

<table border="1"><thead><tr><th>理解の程度</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>十分に理解できた</td><td>36.3%</td></tr><tr><td>理解できた</td><td>60.3%</td></tr><tr><td>少し難しかった</td><td>3.4%</td></tr><tr><td>難しかった</td><td>0.0%</td></tr></tbody></table> <ul style="list-style-type: none"><li>■十分に理解できた</li><li>■理解できた</li><li>■少し難しかった</li><li>■難しかった</li></ul>	理解の程度	割合	十分に理解できた	36.3%	理解できた	60.3%	少し難しかった	3.4%	難しかった	0.0%	<p>発表内容の「理解」については、「十分に理解できた」36.3%、「理解できた」60.3%で、肯定的評価の割合が96.6%であった。</p> <p>記述では、「各校とも明確なテーマをもって授業研究され、丁寧に検証、分析して、分かりやすくまとめられていた。」「研究主題に則った、具体的な実践に基づいた研究であり、理解が深まった。」といった研究内容に対する評価が多くあった。また、「具体事例をもとに、動画等を活用して分かりやすく発表していた。」など、発表の方法に関する評価も多くあった。</p> <p>一方、「少し難しかった」が3.4%あった。</p> <p>記述では、「課題等について、もう少し知りたいと思った。」「発表校を少なくして、1校当たりの時間を十分取り、考える時間を設けると理解しやすいのではないか。」など、限られた時間の中で、発表内容を深く理解したり、自らの取組を振り返りながら考えたりするための時間が十分でないことなどを指摘する意見があった。</p>
理解の程度	割合										
十分に理解できた	36.3%										
理解できた	60.3%										
少し難しかった	3.4%										
難しかった	0.0%										
<table border="1"><thead><tr><th>活用の程度</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>十分に活用できる</td><td>22.6%</td></tr><tr><td>活用できる</td><td>65.1%</td></tr><tr><td>あまり活用できない</td><td>12.4%</td></tr><tr><td>活用できない</td><td>0.0%</td></tr></tbody></table> <ul style="list-style-type: none"><li>■十分に活用できる</li><li>■活用できる</li><li>■あまり活用できない</li><li>■活用できない</li></ul>	活用の程度	割合	十分に活用できる	22.6%	活用できる	65.1%	あまり活用できない	12.4%	活用できない	0.0%	<p>発表内容の「日々の指導への活用」については、「十分に活用できる」22.6%、「活用できる」65.1%で、肯定的評価の割合が87.7%であった。</p> <p>記述では、「課題や改善点などが具体的で、参考になった。」「研究の視点が明確で、汎用性がある。」「実践例が具体的に示されており、すぐに応用できる内容であった。」「他校の取組を知ることで自校の取組を見直すきっかけとなった。」といった意見が多くあった。特に、「目標設定・評価シート」、「実態把握票」、「課題関連図」、支援機器の活用方法及び導入の工夫など、各校の研究の構築や指導の工夫にすぐに生かすことができる具体的な内容の説明や資料提示に高い関心が示されていた。</p> <p>一方、「あまり活用できない」及び「活用できない」が12.4%あった。</p> <p>記述では、「児童生徒の実態が異なるため活用しにくい。」「担当している教科や生徒指導を行う上で活用できそうな部分が多くなかった。」「必要な支援機器をすぐには揃えることが難しいため、応用できにくいと感じる。」など、担当している児童生徒の実態や学校の状況と比較してすぐに活用できにくい、関連付けが難しいといった意見があった。また、「本校の研究とは方向性が異なって</p>
活用の程度	割合										
十分に活用できる	22.6%										
活用できる	65.1%										
あまり活用できない	12.4%										
活用できない	0.0%										

いる。」、「日々の指導に生かすというよりも、学校としての研究や考え方の参考となるものであった。」など、日々の指導に生かすことは難しいが、組織的な取組や考え方の参考となったといった意見があった。

各校の取組については、アンケート結果から、各校の取組や考え方をすることで、自校の取組を振り返るきっかけになった参加者も多くいたと考える。また、参考となる取組を自校の取組に生かそうとする様子が見られ、特に、具体的なシート、支援機器の活用方法、指導の工夫等の発表については、自校の取組に活用したいといった参加者が多く、関心が高いことが分かった。

一方、「活用できない」「あまり活用できない」といった意見も12.4%ある。しかしながら、意見の中には、日々の取組には生かしにくいですが、研究や考え方の参考とすることができたといった前向きな意見が散見され、アンケートの項目について、設問が適切であったか検討する必要がある。

### 研究発表の様子



広島県立尾道特別支援学校

広島県立広島特別支援学校



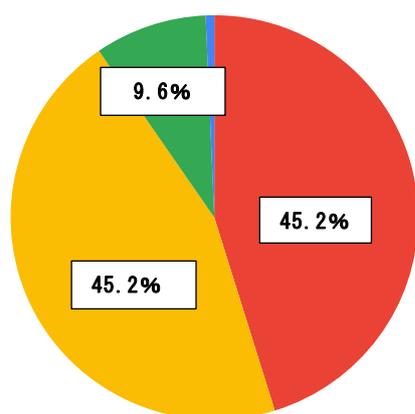
広島県立沼隈特別支援学校

広島市立広島特別支援学校

## (2) 講演

演題	学習指導要領に基づく学習評価の充実～知的障害教育における「各教科等を合わせた指導」を中心に
講師	植草学園大学 発達教育学部 教授 名古屋 恒彦

講演に係るアンケート結果は次のとおりであった。



- 十分に理解できた
- 理解できた
- 少し難しかった
- 難しかった

講演内容の「理解」については、「十分に理解できた」45.2%、「理解できた」45.2%で、肯定的評価の割合が90.4%であった。

記述では、「知的障害のある児童生徒の教育課程における観点別評価について、目標の立て方がよく分かった。」「知的障害教育における観点別評価の考え方、生活単元学習の考え方について理解を深めることができた。」「学習評価の意義、目的そして重要性について実例を示し具体的にお話いただいたため、深く理解でき、共感できた。」「観点別評価の具体例や、陥りやすい目標設定の事例等を示しながら、観点別評価の意義について分かりやすく説明していただき、観点別評価を行うことの重要性について再確認することができた。」「観点的評価の在り方について、具体例を挙げながら講演いただいたことにより、日々の授業につながる考え方ができた。」など、学習指導要領に基づく学習評価について理解が深まったといった意見が多くあった。

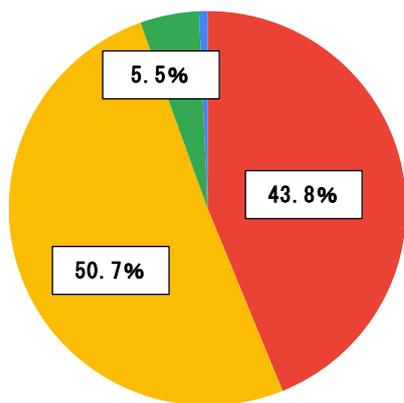
また、「具体的な場面が想像でき、説得力のある説明だった。」「例えなどがあり、分かりやすかった。」「説明原稿資料があり、改めて復習し、学びを深めることができた。」「説明原稿資料に沿って、さらに具体的な説明を加えながら、熱く、分かりやすく講演いただいたことにより、これまでの自校の取組を振り返りながら、今後の取組についての展望をもって聞くことができた。」といった、講師による講演の工夫について評価する記述も多くあった。

一方、「難しかった」「少し難しかった」が9.6%あった。

記述では、「講演内容について、部分ごとには理

解できたが、全体として正しい理解ができたか自信がない。』、『評価の三観点』は『評価の三種類』ではないという話が分かりやすかったが、自分の授業を振り返ったときに難しかった。」「講演内容について理解できたが、実践するとなると迷うことが多いように思う。」など、学習評価に対する自らの理解が十分であるかといったことに対する不安や、講演内容を十分に実践につなげていくことができるのかといった内容の記述があった。その一方、「少し難しかった」としながらも、「講演を拝聴する中で一つの目標に対して3つの観点から見ることにより、目標からぶれることなく多面的に理解することができるということを理解した。」「子供の生活に明確なテーマがあり、そのテーマに沿った活動に確かに取り組み、それをやり遂げた満足感・成就感をもてる生活が送れるように支援する側は努力していかなければならないと思った。」と前向きな意見もあった。

また、「パワーポイント資料があると良かった。」、「パワーポイント等の説明資料等があればもう少し深く理解できたかもしれない。」等、主にオンライン参加者から資料の提示について意見があった。



- 十分に活用できる
- 活用できる
- あまり活用できない
- 活用できない

講演内容の「日々の活動への活用」については、「十分に活用できる」43.8%、「活用できる」50.7%で、肯定的評価の割合が94.5%であった。

記述では、「目標と評価が一体であることを分かりやすく説明して下さったことにより、授業づくりや授業評価で、目標設定が適切かどうかを考える際に活用できる。』、『評価の三観点』は『評価の三種類』ではない、一つの目標を三つの観点から評価するという話が分かりやすかった。今まで自分が設定してきた目標で、相互のつながりが読み取れないものが多かったと反省した。』、「生活単元学習における学習評価をどのように考え、取り組んでいけばよいか、各校が悩んでいることについて、具体的かつ分かりやすく方向性を示していただいたことにより、これまで取り組んできたことやこれから取り組もうとしていることについ

て、改めて振り返り、整理することができた。」「自校の取組を深化させていくための大きな一助をいただいたように思う。」「授業の目標を、三つの柱で考えていくことで、児童の姿をより深く見つけることができるようになった。」など、学習評価について、深く理解し、今後の実践の示唆となる内容であったといった意見が多くあった。

また、「評価を考えた上での授業の組み立てや、実態把握の在り方を意識したいと感じた。」「観点別評価について具体的な活用のイメージが深まった。」「目標設定について具体的な方法を提示していただけたので、活用できると思った。」など、明日からの実践に具体的に取り組むことができる内容であったといった意見も多くあった。

名古屋 恒彦教授による講演「学習指導要領に基づく学習評価の充実～知的障害教育における『各教科等を合わせた指導』を中心に」は、新学習指導要領を踏まえた内容であり、各学校の研究や取組に多くの示唆を与える内容であったことから関心が高かったと考える。アンケート結果では、学習評価についての考え方や、実際の指導や評価の在り方について聞くことができ参考になったといった意見が多くあり、講演が好評であったことが分かった。

学習評価については、今後、教育内容の充実を図っていく上で非常に重要な内容であり、指導者側の知識や理解、組織的な取組の推進が求められる。本講演内容は、多くの参加者にとって、有意義な内容であったと考える。

#### 講演の様子



## 6 成果と課題

### (1) 成果

- 新型コロナウイルス感染症対応を徹底しながら、会場参加を中心としながら、オンライン参加も実施するハイブリッド方式により大会を開催することにより、貴重な研修の機会を確保することができた。
- 研究発表では、広島県内の他校の実践を聞く機会となり、障害種別を超えた情報共有を行うことができた。
- 講演では、特別支援学校における、学習指導要領に基づく学習評価の充実について学びを深め、専門性の向上を図ることができた。
- 大会を会場での参加、オンラインによる参加のハイブリッド型として半日での開催にすることにより、会員が参加しやすい大会とすることができた。
- オンラインでの開催を成功させ、その方法を各校に提供することにより、各校のオンラインでの研修等の開催の一助とすることができた。

### (2) 課題

- 午後からの開催は、参加者にとって参加しやすかった一方で、研究発表が20分間では少ないことや各校の研究への指導・助言をいただきたいことなどについて意見があった。限られた時間の中で、どのように時間配分し、内容の充実を図るのが課題である。発表時間の変更や指導・助言の実施を行うと半日での開催では難しいため、参加しやすさと内容の充実のメリット、デメリットを検証しながら、状況にあった大会内容とする必要がある。
- アンケートの回収について、今年度は、会場での参加者、オンラインでの参加者ともGoogleフォームを活用して行ったが、回収率が27.0%と低かった。回収については、各校への呼び掛けを強化するなど、徹底していく必要がある。